

カトリック京都教区

小教区、司祭、委員会、活動団体各位

第16回 世界代表司教会議（シノドス）  
「ともに歩む教会のため——交わり、参加、そして宣教」  
For a synodal Church: communion, participation and mission

シノドスに向けた質問への回答のお願い

カトリック京都司教

✠パウロ 大塚喜直

2023年秋に開催される第16回のシノドス（世界代表司教会議）は、そのテーマが「ともに歩む教会」であることから、開催に向けての各国・各教区の準備がシノドスの一部として含まれています（参照：使徒憲章『エピスコパリス・コムニオ』19～21参照）。

そのため、京都教区も、ローマ教皇庁シノドス事務局からの質問に回答することになります。京都教区の回答はまとめて（日本語や他の言語のまま）、同シノドス事務局に送り、記録として保存されます。また、日本16教区の回答をさらにまとめたものは、日本司教団の回答として（英語で）、同じく同シノドス事務局に提出されます。

**\* テーマの意味**

教皇フランシスコは、この度のシノドスのために司牧的な特定のテーマを選ぶのではなく、教会の生活と宣教にとって、その根幹となる『シノドス性』（ともに歩むこと）を選ばれました。

このシノドスに向けて全世界の教会は、ともに旅をし、これまでの旅をともに振り返り、その経験を通して、どのようなプロセスが、教会の交わりを生き、人々の参加を実現し、宣教に自らを開くために役立つかを学んでいきます。

**\* 京都教区のシノドス担当部会**

京都教区はシノドスの準備指針に従って、司祭、修道者、信徒からなる「京都教区シノドス担当部会」を設置しました。以下の方が、メンバーです。任期は、2021年9月1日から、2023年秋シノドス閉幕までです。

鶴山 進栄（京都教区窓口）、一場 修、小立花 忠、クエバス・フェリペ、福音宣教企画室

**\* 聖霊に耳を傾ける**

シノドス的な教会として成長するために、聖霊に耳を傾けます。

- ・聖霊が、歴史の中で教会の旅をどのように導き、今日、わたしたちがともに神の愛のあかし人となるよう呼びかけているか思い起こす。

- ・さまざまな理由で周辺に追いやられた人が、自分たちの声を聞いてもらえる機会を作る。
- ・共同体の善と全人類の利益のため、霊のたまもの、カリスマの豊かさと多様性を評価する。
- ・だれもが、福音を宣べ伝える任務を果たすことができる参加型の方法を模索する。
- ・福音に反する偏見や歪んだ慣習を明らかにし、それらを変えようと努める。
- ・教会や運営する組織の中で、責任と任務がどのように機能しているかを精査する。
- ・対話、いやし、和解、受容と参加、民主的構築、友愛の促進において、互いに信頼できるキリスト教共同体を維持する。
- ・カトリック教会共同体のメンバー間、キリスト教諸派、諸宗教共同体、市民グループや運動体など、教会と社会のグループとの関係を深める。
- ・全世界、地域、国、教区レベルにおけるシノドス的な動きを評価し、活用する。

\*シノドスのための祈り

シノドスのための「祈り」があります。質問について、分かち合いをする前に、個人として考える前に、シノドスのための祈りなどを祈り、聖霊の導きを願うことをお勧めします。

**シノドスのための祈り Adsumus Sancte Spiritus**

(聖霊よ、わたしたちはあなたの前に 立っています)

**聖霊よ、**

わたしたちはあなたの前に立ち、あなたのみ名によって集います。  
 わたしたちのもとに来て、とどまり、一人ひとりの心にお住まいください。  
 わたしたちに進むべき道を教え、どのように歩めばよいか示してください。  
 弱く、罪深いわたしたちが、一致を乱さないよう支えてください。  
 無知によって誤った道に引き込まれず、偏見に惑わされないよう導いてください。  
 あなたのうちに一致を見いだすことができますように。  
 わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、  
 真理と正義の道を迷わずに歩むことができますように。  
 このすべてを、いつどこにおいても働いておられるあなたに願います。

**御父と御子の交わりの中で、世々とこしえに。 アーメン**

**京都教区の皆さんへの質問**

基本的な問いは、シノドスの教会が福音を告げながら「ともに旅をする」ということは、今日、わたしたちの教会の中で、どのような形で起こっているかという問いです。

以下は、「シノドス準備文書」にある 10 項目の質問です。

\*小教区または施設・団体の方々の多くの意見を反映できる形で、意見収集してください。

- \*特に普段、意見を聴くことができない方々、声が届きにくい方々の声も反映させてください。
- \*10の項目すべてに回答する必要はありませんが、「ともに歩む」ことをそれぞれが置かれた状況で、どう生きているかふり返ってみてください。すべての項目についての回答を網羅することを目指すのではなく、自己の共同体（団体）の状況に当てはめて、可能なかぎり多くのメンバーと分かち合いを行い、一緒に考えてください。
- \*必ず何らかのグループで話し合い、それをまとめて回答として提出してください。

## 〈 質問 10 項目 〉

### 1. 旅の同伴者

皆さんの教会で、「わたしたちの教会」というとき、誰がその仲間でしょうか。  
逆に、どういう人、またはグループが、教会内外で、取り残されているのでしょうか。

### 2. 聴くこと

教会の内部で、また教会外の人々と、わたしたちの教会は、それぞれ誰に対し「耳を傾ける」必要があるのでしょうか。何が、耳を傾ける助けと妨げとなるのでしょうか。

### 3. 声に出すこと

わたしたちの生活の中で、また地域社会や団体の中で、福音の価値を公に表明する場面がありますか。そのために、何が助けと妨げになるのでしょうか。また社会に対して、誰が教会を代表して発言しますか。

### 4. 祝うこと

祈りと典礼において、信徒を含め、信者全体は、どのように参加しているのでしょうか。  
参加は広がっているのでしょうか、後退しているのでしょうか。

### 5. 宣教における共同責任

皆さんの教会では、信仰教育や社会での奉仕活動の計画は、だれが、どのように決定しているのでしょうか。誰が計画の実施を担っているのでしょうか。その人たちは、どのように選ばれ、どのような養成を受けていますか。それ以外の人たちは、彼らを十分に支援していますか。

### 6. 教会と社会における対話

皆さんの教会では、そのビジョンや方針はどのように話し合わせ、決められていますか。  
近隣の教区、地域の修道会、信徒団体などと、どのような対話と協力をしているのでしょうか。  
信者以外の一般の人々と、どういった対話、協力の経験がありますか。  
彼らから、どのようなことを学んでいますか。

### 7. 他のキリスト教諸派とともに

皆さんの教会は、他のキリスト教諸派の兄弟姉妹とどのような関係性をもっていますか。

こういった分野に彼らは関心があるのでしょうか。彼らとの対話の実りと妨げは何でしょうか。

## 8. 目標設定と実現での責任と参加

教区や小教区の目標設定とその実現のためのプロセスは、誰が、どのように決定していますか。チームワークと共同責任は、どう実践されているのでしょうか。信徒の参加はどうでしょうか。教区レベルでの共同決定・共同責任を実践する機関はありますか。その実りと妨げは何でしょうか。

## 9. 識別することと決断すること

皆さんの教会の決定は、どのような手順と方法で決定されているのでしょうか。共同での識別が行われているのでしょうか。どうすれば、それらは改善できるのでしょうか。透明性と説明責任を、どのように促進できるのでしょうか。

## 10. 「シノドス性」(ともに歩むこと)の中で自己形成すること

皆さんの教会の中で責任ある役割を担っている人々が、互いに耳を傾け合い対話しながら、「ともに旅をする」教会がさらに成長し、共同で識別と決断ができるようになるため、お互いにどのような養成ができるのでしょうか。何が妨げになるのでしょうか。

### \* 回答書提出の締め切り

各教会、各団体・グループ等からの回答の提出は、できるだけ、2022年4月9日(土)までにお願います。(司教団への提出のために)

⇒ただし、京都教区のシノドスの歩みは続きますので、上記の締め切り以降でも、意見がまとまり次第、随時提出してください。京都教区のシノドスの歩みのために、それらの回答も生かしていきます。

### \* 提出方法

A4(ワード)で、〈福音宣教企画室宛〉に、Eメールで送付してください。

[fukuin@kyoto.catholic.jp](mailto:fukuin@kyoto.catholic.jp)

必ず、話し合ったグループ名(小教区・ブロック・施設・団体など)、提出者の氏名を記入してください。

### \* 言語

日本語以外の言語でも、回答することができます。

### \* 問い合わせ先

福音宣教企画室 Eメール、または、075-366-3629 まで。

以上。